


**METHOD FOR MAKING ELECTRONIC CONFERENCE (CHAT) WITH MOBILE PHONE AND PHS**

**Patent number:** JP2002009819  
**Publication date:** 2002-01-11  
**Inventor:** SATO SHINHO  
**Applicant:** SATO SHINHO;; MITSUTAKE SANAÉ  
**Classification:**  
- international: H04L12/54; H04L12/58; G06F13/00  
- european:  
**Application number:** JP20000226107 20000621  
**Priority number(s):**

**Also published as:** JP2002009819 (A)**Abstract of JP2002009819**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a method for having a chat by means of mails (messages) among many unspecified people by the use of mobile phones and personal handy phone systems without using a homepage and a specific software program.

**SOLUTION:** The method of this invention manages mails (messages) and users via a chat server. By transmitting a nickname and personal information to the chat server, the chat server manages the mails (messages) and the users.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2002-9819  
(P2002-9819A)

(43) 公開日 平成14年1月11日 (2002.1.11)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	ターミナル* (参考)
H 0 4 L 12/54		G 0 6 F 13/00	6 1 0 A 5 K 0 3 0
12/58		H 0 4 L 11/20	1 0 1 B
G 0 6 F 13/00	6 1 0		

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号	特願2000-226107 (P2000-226107)	(71) 出願人	500347128 佐藤 貞補 愛知県豊橋市神野新田町字ヲノ割67番地
(22) 出願日	平成12年6月21日 (2000.6.21)	(71) 出願人	500347140 三竹 早苗 愛知県岡崎市土井町字西番城3 アルファ タウンD-102
		(72) 発明者	佐藤 貞補 愛知県豊橋市神野新田町字ヲノ割67番地
			Fターム (参考) 5K030 HA06 LD08

(54) 【発明の名称】 携帯電話、PHSで電子会議 (チャット) をする方法

(57) 【要約】

【課題】 携帯電話、PHSを使用して不特定多数でホームページや特定のソフトを使わずにメール (メッセージ) でチャットをする方法。

【解決手段】 チャットサーバーを介して、メール (メッセージ) やユーザー管理する。ニックネームや個人情報をチャットサーバーに送ることによりチャットサーバーがメール (メッセージ) やユーザーを管理する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯電話、PHSで、メール（メッセージ）を利用して電子会議（チャット）をする方法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話、PHSで電子会議（チャット）をする方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】携帯電話、PHSなどで、不特定多数でチャットを行うには、インターネットなどでのホームページにアクセスしたり、特定のソフトを利用してチャットをしていた。また、チャットする相手の接続、発言などを確認する為に、一定の間隔で最新の情報を取得しなければならなかった。また、携帯電話どうしでのチャットシステムでは、相手の電話番号、またはメールアドレスを知らなければ会話ができないため匿名での会話ができなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】携帯電話、PHSなどで、ブラウザや特定のソフトを利用しないで。匿名での参加、不特定多数でリアルタイムにチャットを行う事を課題として研究した。

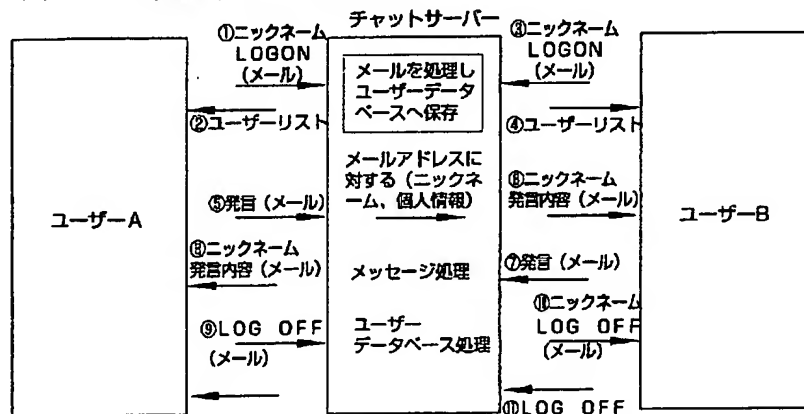
【0004】

【課題を解決するための手段】メールまたはメッセージを処理するチャットサーバーを設置し、ユーザーはこの＊

＊チャットサーバーを介してメールまたはメッセージでチャットを行う。チャットをする者はチャットサーバーへ、ニックネームなどの個人情報をメール（メッセージ）で送る。チャットサーバーはユーザーからのメール（メッセージ）を受け取りユーザーを管理する。発言する時はチャットサーバーへメール（メッセージ）を送り、チャットサーバーが他のユーザーへ発言者のニックネームと発言の内容をメール（メッセージ）で送る。二人以上の会話中に第三者がチャットに参加する場合は、ニックネームとその他の個人情報をメール（メッセージ）でチャットサーバーへ送る。チャットサーバーは、既にチャットしている者に対し、新たに参加者がいることをメール（メッセージ）で通知し、新たに参加する者に対して、既にチャットしている者のリスト（ニックネーム）をメール（メッセージ）で送る。チャットサーバーからユーザーに対して送るメール（メッセージ）の内容は、ユーザーのニックネームと発言内容を含めて送るので、誰の発言かを判断できる。また、ニックネームでのメッセージ交換なので匿名性を保つことができる。発言があった場合、チャットサーバー側からユーザーへメールまたはメッセージを送る方法なので、ユーザーは常時接続していなくても、発言内容をリアルタイムに受け取ることができるようになる。

【0005】

【発明の実施の形態】



【0006】

【発明の効果】本システムを利用する事により、携帯電話やPHSなどで、複数人数でのチャットが可能になり、チャットサーバーへ常時接続していなくてもリアルタイムにチャットができるようになる。また、個人のプ

ライバシーが保護されているためユーザーが参加しやすくなり、自由な発言ができるようになる。同時に予期しない情報の入手を防ぐことができる。さらに、各種フォーラム（部屋）を設けることで、同じ趣味や興味をもつ仲間とリアルタイムな情報交換できる。